

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東棟 )

事業所番号	0692300080		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホーム大江		
所在地	山形県西村山郡大江町左沢536-1		
自己評価作成日	令和 3年 11月 1日	開設年月日	平成28年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム大江では、法人の経営理念である「ご利用者様がその方らしく生活し笑顔で過ごされることをどこまでも支援する」を念頭に置き、ご利用者様の生活が少しでも豊かになるような支援に努めています。ご利用者様を支援する一方の立場におかず、常に生活の中心にいて家事や行事活動において、できる事を継続して行える環境作りを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 12月 14日	評価結果決定日	令和 4年 1月 6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

水郷大江の地で開設5年になる事業所では、「おだやかに・おちついた生活をえがおで送る」の理念を持ち、地域の方々との交流を深めながら、利用者一人ひとりが持っている力を発揮し、自分の出来る事を役割として継続していけるよう支援しています。コロナ禍で地域交流も中止になり面会も制限され、利用者も寂しい思いをしていますが、家族等には毎月のお便りや電話で様子を知らせて安心を届けています。職員は研修を受け、学びを深めると共に新たな刺激を受けてスキルアップし、利用者がおだやかに生活出来るよう支援に努めている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、事業所内に掲げ共有し実践につなげている。	事業所理念と各ユニット目標を道標としてケアに当たっている。利用者の笑い声が大きくなり、表情も豊かになってきている事で、理念や目標が生きていると感じ、利用者に合わせて時間を大切にしてケアの実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には事業所の代表が参加し地域とのつながりを持っていたがコロナ禍の現在は交流が希薄になっている。	例年ならば地区の秋祭りや町内一斉清掃などに職員が参加し、事業所主催の夏祭りには地域の方に来てもらい楽しんでいましたが、コロナ禍によりここ1～2年交流が中止になっている。この間、事業所での行事や誕生会、また毎日の体操では、意識して大きな声を出し、張り合いのある時間を過ごしている。利用者は落ち着いたら知り合いの人に会える地域交流の再開を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの感染状況が落ち着いた際にはいつでも再開できるように地域住民の方との連携を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の現在、2ヶ月に1回の運営推進会議は書面にて取組みなどの報告を行っている。	運営推進会議は書面会議とし、行事など報告事項や利用状況・ヒヤリハット等を書面にしてメンバーに届けている。会議の内容を職員に周知を図ろうとしたがコロナ禍にあり実行出来ず、会議の意義を全員に浸透させる事を課題としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事を問い合わせている。情報の交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいる。	町からのメールや地域包括支援センター主催の会議を通し情報を得ている。更新時の実地指導ではアドバイスをもらい、ワクチン接種や福祉制度利用の方の受け入れなどで頻りに連絡を取り協力体制を強化している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会の設置、身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備し毎月の会議で確認している。</p>	<p>身体拘束委員会の会議に全員が参加して、拘束にあたることはないか検討している。研修は年2回行い、認知症について行動背景の理解が必要である事を学んでいる。また「虐待の芽チェック表」の記入を定期的に行い職員全員で確認している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内研修や外部研修で学ぶ機会を持ち、理解を深め虐待防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業所内の研修で学ぶ機会を持っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書及び重要事項説明書の内容について時間をかけて説明を行い、質問があればその都度、お答えしている。また重要事項の改定時は口頭や書面にて説明し、不明な点がないよう努めている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>率直な意見・要望がいただけるよう玄関前に意見箱を設置したり、本人・家族と日頃よりコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気作りをしている。また家族アンケートを年1回実施している。</p>	<p>コロナ禍にある現在、制限付きの面会・毎月のお便り・ケアプランの更新時など、色々な機会をとらえて話を聞き、家族アンケートの結果でも対応に満足して貰っている。意見や要望は職員で相談しながらサービスの向上に繋いでいる。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回、ユニットのケース会議で業務や運営について意見や提案があれば、それらをまとめて、職員会議で皆で協議して施設運営に役立たせている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や力量を把握して業務を任せている。管理者はサポートを行いつつも、本人に一任する事で責任感や向上心を持って取り組めるようにしている			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回事業所で勉強会を実施している。また年度初めに内外の研修計画を立てて、事業所の全職員が研修を受けられるよう配慮し、職員の知識や質の向上に努めている。	事業所内で身体拘束・虐待・感染症など項目を決め勉強会を行い、スキルアップを図っている。外部講師による研修では、新しい刺激を受けケアの方法に気付く事も多く、全員が向上心を持って受けられるようにしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大江町のサービス調整会議に参加し町内の事業所や施設の相談員やケアマネと交流を図っている。	地域包括支援センター主催の大江町サービス調整会議に参加している。町内事業所・施設の方や居宅のケアマネジャーが集まり、他事業所の見学や事例発表などもあり、管理者が参加してケアの質の向上に繋げている。県グループホーム協議会にも加入しているが、今年は参加していない。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やケアマネより、本人の状態・状況を確認し、職員間で情報を共有した上で安心して入居していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の話をお聞きし、不明な点や不安な事があればその都度対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族のお話しの中から、いま必要としているサービスや支援を把握して、提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護を受ける側へ置かず、出来る事を見極め、また職員と一緒にやる事で継続していける環境作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為直接ふれあうことは難しい状況だが、ガラス戸越しの面会対応、またお便りや電話等で現況を伝え家族との関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接ふれあうことは難しいが、電話を取り次ぎ話をしていただくなど、本人との関係が途切れないよう努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順を工夫し、利用者同士が関わりやすい環境作りに努めている。職員も利用者の中に入りながらスムーズにコミュニケーションがとれるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には情報の提供を行い、サービスの提供がスムーズにいくように努めている。また退居された利用者様の家族に対しても、必要に応じて相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日常の会話や関わりの中から、ご本人の思いや希望を把握し、ご本人の意向に沿った支援ができるように努めている。	毎日の暮らしの中で機会をとらえ、元気で働いていた頃の話などを聞いている。得意な事や洗濯物たたみ、食事の手伝いなど役割を継続して行けるよう配慮し、その際感謝を伝える事を大事にしている。認知症により意思疎通が出来なくなる事もあるため、細かな行動を見落とさないように気を付けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際はご本人やご家族から生活歴や生活環境をお聞きし、馴染みの暮らしに添えるように一人ひとりにあった支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の利用者様との会話や関わりの中から心身状態に変化がないか把握できるように努め、申し送りを通し情報が共有できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や家族の意向を尊重し、ユニットのケース会議や毎月のモニタリングを通して、その方の状態に合った介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアへの評価を個別記録に残したり、申し送りを活用し職員間で情報を共有することで介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナウイルス感染症拡大のため、地域との交流やボランティアによる慰問が難しかった。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やかかりつけ医と連携を図り、ご本人様、ご家族の希望に沿って受診対応を行っている。通院が困難な場合、在宅診療所の往診で対応している。		従来からのかかりつけ医へ通院する時はコロナ対策の上、家族等が同行しているが約半数の方が往診してくれる医師をかかりつけ医としている。常勤看護師は日常の健康管理を行い、身体状況に変化ある時の連絡、往診時の同席などで医療連携が出来ており、受診結果等についても家族等・職員は共有している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中ですらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、介護職員、かかりつけ医と協力し健康観察を行っている。必要時には医師への連絡や相談を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合、医療機関の地域連携室と情報交換や共有を行い、退院に向けた調整を行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合の説明を行っている。本人、家族の希望があれば、医師や看護師と連携し看取りを実践している。</p>	<p>指針にもとづき入居時利用者・家族等に重度化した時の対応を説明し理解を得ている。食事が摂れない、立ち上がりスムーズにいかないなど介護度の変化があった時、家族等へ連絡し話し合い、入院や移設、看取りなど以降の支援方針を確認している。終末期については医師・看護師・職員が連携して最期まで穏やかに過ごせるよう支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時に備えて消防署よりBLSやAED訓練を行っている。対応について勉強会を行っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練、研修会を行い、災害時対応の周知をしている。また、備蓄等も行い災害へ備えている。</p>	<p>初期消火・通報・避難誘導訓練に時間計測などを取り入れて総合避難訓練を行っている。実施後は消防署講評や反省点・課題、良かった点などを話し合い次回の対策を検討している。毎日の自主点検や町内河川氾濫を踏まえ水害発生時の避難について内部研修を行い職員の防災意識を高めている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>自尊心を尊重し、声掛け等を気を付けている。プライバシーの確保を行い不適切な対応をしないよう努めている。</p>	<p>一人ひとりの思い、出来ることやしたいこと、どのように暮らしたいかを職員は共有し、利用者が満足して生活しているかを常に考え、声掛けや言葉づかいに気をつけ寄り添いながら支援している。プライバシーを守ることを意識して他の利用者から見られない・わからないよう不快や羞恥心に配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や思いを優先し、それに合った環境の提供ができるよう努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて体操等への参加、居室で休まれる時間を作るなどそれぞれに合った対応をしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時、利用者に衣類を選んでいただいたり、毎日のモーニングケア時、できる利用者の方には洗面、髪の設定をしていただいている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月イベント食を企画し、食事を楽しめる環境作りに努めている。	年2回嗜好調査を行い誕生会にぼた餅など利用者の好物を提供して喜んでもらっている。ふだんは配食サービスを利用して食事を提供し、毎月行事食の日は出前ラーメンや弁当、皆で手伝いながら作るカレーライスや玄関先でサンマを炭火焼きし出来栄を自慢しながら食べる楽しいイベントとなっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の身体の状態に合わせた食事形態を提供している。また、状態が変わった時にはその都度、食事形態の変更に努めている。1日トータルの水分補給量を把握し少ない方に対してはこまめに摂取を促している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に合った用具で口腔ケアを実施している。出来る限り自分で行える環境整備に努めているが必要に応じて介助を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、随時トイレ誘導など個別に排泄ケアを行っている。	自立の方からオムツ利用の方まで一人ひとりのパターンを把握し時間や食事前後など本人に合わせてトイレ誘導している。トイレでの排泄を大切にしなが便秘の改善や失禁など失敗時の羞恥心やプライバシーに配慮した対応で利用者が安心して過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分を摂れるよう声かけを行っている。また、体操などを実施し、体を積極的に動かす機会を作ることで便秘解消に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に合わせて入浴を行うようにしている。入浴剤等を利用し、入浴を楽しんでもらえるような支援に努めている。	熱めのお湯が好き、ゆっくり入りたいなど希望に沿って週2～3回入浴している。入浴前の体調確認や血圧・体温測定、1対1の介助や手すり設置で安全に配慮している。入浴剤を利用し、温泉気分のリラックスした中で会話もはずみ、歌を口ずさむ方もおり気持ち良く入ってもらっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有のフロアにソファが設置してあり、いつでも利用者が利用でき、休息をとれるようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服される薬を一人ひとりの職員が把握している。服薬ミスがないように職員2名でのダブルチェックを徹底している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や趣味を知り、出来る範囲で対応を行っている。季節にちなんだ行事を計画することで、気分転換を図り、楽しんで頂けるように努めている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の状況にあり、現在は行えていない。定期通院の外出時は利用者様の気分転換になっている様子。	コロナ禍のため外出行事を中止しており、通院時に車窓より町の風景や花などを見ることが数少ない機会となっている。家族等や地域の人との交流は出来ないが、玄関先で外気に触れながらお茶会や焼き芋づくり、花火など利用者と職員と一緒にイベントを楽しんで気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の現金は施設が管理している。外出が困難な状況にあるため、必要な物や欲しいものは依頼を受けて職員が購入している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者様から希望あればその都度取次ぎの支援を行っている。ご家族からかかってきた際にご本人様と代わり話していただくこともある。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節により装飾を変え季節を感じていただいている。定期的な換気や温度、湿度調整を行いながら快適に生活できるよう努めている。</p>	<p>居室に囲まれ高い天井がある広く明るいホールは毎日の食事の場であり、体操やレクリエーション活動を行い、午後のひと時にお茶を飲んだりテレビを見たり利用者同士や職員と会話を楽しむ場所としてゆっくり寛げるスペースとなっている。感染症予防のため職員は検温、手指の消毒や手洗い、密にならないなどを徹底し、建物内の掃除や消毒、換気などをこまめに行っている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>全室個室直なので自由に過ごしていただいている。食席も入居者様が楽しく過ごせるよう工夫をしている。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様が一人ひとり、使い慣れた物や思い入れのある物を居室において快適に過ごしていただいている。</p>	<p>使い慣れた品や家族写真・家具などを持ち込み一人ひとりの個性に合った部屋作りをして居心地良く過ごせるようにしている。就寝時は眠りスキャンにより睡眠や覚醒の様子を把握して見守り、ふらつきのある方には転倒などの事故が無いようセンサーを利用し安全な暮らしに繋げている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのADL状況に配慮し安全に生活が送れる環境づくりに努めている。</p>			